

## 5月号 こどもとの適切な距離感を意識しましょう

こどもたちに学習指導をするにあたり、まずはこどもと信頼関係を作ることが大切です。前準備として、こどもとの物理的な距離感を考えてみましょう。

その一つに、パーソナルスペースと呼ばれる対人距離があります。個人差はありますが、45cm 以下の距離に他人が近づくと、人は嫌悪感や不安感を抱きやすいそうです。

試しに腕を横に伸ばして、腕の付け根から手首までの距離を測ってみてください。だいたい 45cm ぐらいのはずです。こどもに手が届くということは、すでにパーソナル距離に侵入していることとなります。個別指導において、こどもとの距離が近くなるのは普通のことですが、それは学習指導という暗黙の了解があるからにすぎません。こどもとの信頼関係ができるまでは、いつもより少し距離をとるなど、物理的距離が近づきすぎないように注意しましょう。

また、ある程度信頼関係ができたとしても、油断は禁物です。こどもは大人のちょっとした態度や挙動に敏感です。例えばこどもの横でつい腕を組む、足を組むことがあります。威圧感・圧迫感を感じてしまうこどもがいますので注意が必要です。また自分の視線にも気を付けましょう。こどもが問題を解いているときにじっと凝視すると、緊張するこどもがいます。あえて視線を外すことも大切です。

最後にこどもへのボディタッチは一切厳禁です。親しみの気持ちを表すためという声がありますが、身体的な接触をせずとも、言葉によるもの、ジェスチャーによるものなどいろいろな方法があるはず。そのようなことへの理解や配慮が、こどもとのより良い関係づくりに繋がるといえるでしょう。

## 6月号 こどもとのこころの距離を縮めるために

前回はこどもとの物理的な距離について確認しました。今回はこころの距離を縮めてよい関係をつくるための方法を考えます。

まず意識したいのはこどもとの雑談です。不登校ジャーナリストの石井しこう氏も雑談の重要性をお話しされていました。ところが、いざ、こどもを前にすると何を話したらよいのか思いつかないことがあるかもしれません。そのようなときの備えとして、例えば 3K（給食・クラブ・季節）、3G（学校・行事・ゲーム）などと、話の引き出しを、あらかじめ考えておくことも一つの方法です。

また、こども未来教室の参加生には「初回アンケート」を実施しています。そのなかに『勉強以外に熱中しているものを教えてください』という項目があります。記載内容を見ると、こどもたちは実にいろいろなことに興味関心を持っているとわかります。こどもが書いた内容を覚えておいて、話の切り口としてもよいかもしれません。

逆に服装や、持ち物など、こどもの外見や所有しているものを話題にすることや、プライベートに属すること、例えば家族のことなどを根掘り葉掘り聞くのは避けたほうが無難ですね。

こどもが話を始めたら、しっかり耳を傾けましょう。聞いているはずがいつの間にか自分の話をしているということはありませんか。こどもの何気ない一言のなかに、本心が隠されていることもあります。気になる発言などがあつたら、その場では否定せずに耳を傾け、その後、指導員に報告、相談するなど必要な対応をとりましょう。

話をよく聞いていることを示すために相槌も大切です。褒める相槌の一例として「さしすせそ」をご存知でしょうか。「さ」さすがだね。「し」知らなかった。「す」すごいね。「せ」センスあるね。「そ」そうなんだ。これらの相槌を、タイミングよく使うことで、こどもの意見を尊重しているという気持ちが伝わりますし、こどもの自己肯定感を高めることにも繋がるかもしれません。会話のアクセントとして意識してみたらいかがでしょうか。

## 7月号 公式の扱い方

先日実施しました初回トライアルにおいて、三角形の面積を求める問題で『 $\div 2$ 』を忘れていた子どもが何人かいました。三角形の面積を求める公式は『底辺 $\times$ 高さ $\div 2$ 』。「公式を覚えていたら解けたよね」と言いがちですが、覚えようねと言っても、なかなか覚えられない子どももいますし、ただ暗記するだけの勉強はつまらないものです。学習会で公式をどこまで扱うか、悩ましいところですね。

いろいろな考え方があるなか、まず大切にしたいのは、その公式が導かれる過程を示すことでしょうか。教科書では、同じ形の三角形を2つくっつけて平行四辺形として、その面積を2等分することで求めています。『平行四辺形（=四角形）の面積を求めて2で割る』これが頭にあれば、『 $\div 2$ 』を忘れることを防げるかもしれません。同じように台形の面積を求める公式も、台形を2つくっつけて、平行四辺形をつくり2等分します。（上底+下底）はくっつけた平行四辺形の底辺になりますね。子どもが公式を覚えられないときには、教科書を参考に、その公式の成り立ちを説明することが有効な方法の一つです。

中学生になると、さらに多くの公式が登場しますが、公式に当てはめるだけで答えが出る問題は少なくなります。公式を覚えることも大切ですが、先々を考えると、その成り立ちを考えることも同じぐらい重視したいところです。

一方、速さの単元で「み(き)はじの法則」と呼ばれるものがあります。み=道のり（き=距離）、は=速さ、じ=時間とし、ひとつを隠すと、残り二つの関係式を示せるものです。知っていることも多いようですが、必ずしもうまく使えていない印象があります。それぞれの関係を理解していないと、数値をあてはめるだけの単純作業になってしまいますし、単位換算の意識が薄くなるからかもしれません。

教科書では、速さについて「単位あたりの量」からアプローチしています。つまり速さを『1時間あたり、1分あたり、1秒あたりに進む道のりで表す』と説明しています。1時間で40kmの道のりを進むなら速さは時速40kmですね。2時間では80km、3時間では120km進みます。このことを正しく理解しておけば、同じ速さで200km進むと5時間かかるはずとイメージができて、公式に頼らなくても解ける可能性が広がるはずです。

公式をどう扱えばよいか迷ったときには、まずは会場に配備されている教科書を確認してみると、子どもたちが活用していきやすい伝え方のヒントが見つけやすいかもしれません。

## 8月号 集中力を高めるために

学習会において、決められた時間内に集中して取り組むことができるこどもがいる一方で、数問解いただけで落ち着きがなくなるこどももいます。それぞれのこどもの特性に配慮して対応することが前提となりますが、その日の学習目標を達成するためにどのような工夫があるでしょうか。

### 1.やるべきことを「見える化」する

その日の学習予定をおおまかに明示する方法です。毎回こどもには、「目標&学習シート」の「今日の学習内容」を記入してもらいます。その内容を確認しながら、『1コマめの最初の30分は学校の宿題をやる。その後、好きなお絵かきをして休憩。2コマ目は少し雑談をしてから、残り30分集中しよう。』など、**こどもと相談しながら、その日の体調や気分留意して、予定を「見える化」**する方法です。この作業により、やるべきことが明確になり、こどもの集中力を維持するのに役立つようです。

### 2.時間を細かく区切る

あるスタッフは学習時間を細かく区切り、それぞれの時間帯ごとに何をやるか明示していました。『最初の10分で漢字ドリルを○ページやり、5分休憩。その後10分で意味調べをやり、終わったら気分転換に算数の計算を10分やる』といった具合です。ひとつこなすごとにチェックを入れると達成感を得られますし、学習内容を変えることで飽きさせず、集中しやすい状況をつくることができます。

### 3.目標を「細分化」する

似たような手法として『目標の細分化』があります。例えば漢検〇級合格しようという目標を決めたとしても、何をすればよいかわからないこどもがいるかもしれません。こどもと相談しながら、いつ何をどれくらいやるか計画を立てます。例えば1日10個覚えよう！など、**なるべく小さな目標を設定して、一つずつクリアしていく**というものです。**クリアするたびに達成感を得られる**ので、次も頑張ろうという気持ちに繋がるようです。

### 4.「リフレッシュ」する

こまめに休憩をとってリフレッシュすることは有効です。『**軽くストレッチをしてみる**』『**深呼吸をする**』『**窓外の景色を眺める**』『**冷たい水で手を洗う**』など、普段と違う動きを取り入れてみたらいかがでしょうか。休憩時間には、会場にあるゲームをしたり、他のスタッフやこどもと雑談するのも、よい気分転換になることでしょう。

ほかにもさまざまな工夫があると思います。

各会場で、こうしてみたら効果があった！といった事例がありましたら是非お知らせください。

## 9月号 こどもに寄り添うということ

かしわしこども未来学習会のスタッフマニュアル 4 ページに、学習会の 5 つの基本方針が示されています。そのひとつに『個々に応じた寄り添い』があります。続けて『一人ひとりのこどもの状態を鑑みながら、こどもが目標を決め、それを達成できるように応援すること』と書かれています。こどもの成長をサポートするためには、こどもに寄り添った対応が必要になります。では具体的にどのような姿勢で臨めばよいのか、改めて考えてみましょう。

### 1. こどもの話に耳を傾けること

自分が話す以上に、こどもの言葉に耳を傾けることが大切です。会話の比率は「聴く 7 割：話す 3 割」ぐらいのイメージでしょうか。こどもを応援したい気持ちのあまり、つい自分の話ばかりしてしまうことはありませんか。小中学生の年齢では自分の気持ちをうまく言葉に表せないことがあります。話が途切れて沈黙の時間があっても、こどもの次の言葉を待つようにしましょう。

### 2. こどもの気持ちを尊重すること

単に「聞く」だけでなく、こどもの表情や、声のトーン、話し方にも注意を払いながら、こどもの気持ちを理解するように努めます。こどもが口では「大丈夫」と言っている場合でも、その場では話をしたくないだけかもしれません。こどもの態度や、言葉遣いなどいつもと異なる点はないか、こどもの様子をよく観察しましょう。声をかけずに、そっとしておく時間も時には必要かもしれません。

### 3. こどもの立場に立つこと

こどもの意見や考え方を即座に評価せずに、なぜそう考えるに至ったか、背景にあるものに関心を持つことが大切です。こどもとの何気ない会話のなかで、すぐには理解しがたい発言があったとしても、頭から否定せずに、その場ではいったん受け止めるようにしましょう。

### 4. こどもに考えさせること

何か課題が見つかったら、つい先回りして答えを示したくなりますが、過去の常識は、現在の常識と必ずしもイコールではありません。大人の経験や価値観はいったん脇に置いておき、こども自身が考えたり、調べたりする時間をとりましょう。たとえすぐに結論が出なかったとしても、こども自身が「自分で考え」「自分で選択する」経験を重ねることで、こどもの自立心の成長に繋がるはずです。

以上、何点か挙げてみました。大人が良かれと思っていても、こどもの受け止め方はいろいろです。こどもに向き合う際には、こどもそれぞれに寄り添った対応が必要になりますね。

## 10月号 話し方のコツ

同じ内容を話していても、相手にきちんと伝わる人と伝わりにくい人がいるものです。話し方をちょっと工夫すれば、改善されることがあるようです。そこで今回は話し方のコツについて考えてみます。

### 1.笑顔で話す

こどもに安心感を与えるためには、何よりも笑顔が大切です。

### 2.ゆっくり話す

無意識のうちに早口にならないように注意しましょう。NHKのアナウンサーが話す速度は1分間に300字前後だそうです。聞き手が内容を理解しやすく、信頼性も高まる理想的なペースとされているようです。試しに実際に話してみると意外にゆっくりしているとわかります。

### 3.スピードを変える

大切なところは、こどもが聞き取りやすいようにさらにゆっくり話す。注目してほしい時にはあえて早口にするなど、緩急をつけることも有効です。

### 4.声の大きさを調整する

大きすぎると周囲のスタッフやこどもが気にするかもしれませんし、小さすぎると聞き取りにくいので適切な大きさを意識する必要があります。一般的には『相手の1列向こうに届くような声』が良いとされます。ちょっと難しいですが、こどもの正面から話をする際に、こどもの背中に声を通すイメージでしょうか。

### 5.強弱をつける

重要なところを説明するときに、あえて小さな声で話すと、こどもは何だろうと思い集中してくれることがあります。スピードの緩急と、強弱を組み合わせるとメリハリのある話し方を心掛けましょう。

### 6.間（ま）をとる

一方的に話を続けてしまうと、相手の理解が追いつかずに、考えることをやめてしまうことがあります。こどもの様子を見て、適度に間をとりましょう。

### 7.指示は1度にひとつ

一度にいくつもの指示を出すと、こどもは混乱してしまいます。指示を出すときには、あれこれ盛り込まずにひとつに絞って伝えることが大切です。

もし気になるケースがありましたら、近くのスタッフや指導員に確認してもらってもいいかもしれませんね。

## 11月号 教科書活用法

令和7年度、すべての会場に算数の教科書が配備されました。スタッフマニュアルには以下の3つの活用法が示されています。1.宿題の類題として使用する 2.さかのぼり学習に活用する 3.スタッフの勉強のために利用する。今回はそれぞれの活用法についてさらに掘り下げて考えてみたいと思います。

### 1.宿題の類題として活用する。

持ってきた学校の宿題が終わって、他にやることがないと言ったときに教科書が役に立ちます。各ページの「練習」、章末の「学習のしあげ」、巻末の「〇年のふくしゅう」「ほじゅうのもんだい」など教科書にはたくさんの類題が掲載されています。その日の学習に関連するものを解いてもらうには十分な量がありますよね。答えがないから（不安）との声もたまに耳にしますが、各ページについているQRコードにアクセスすると解答を確認することができます。さらにたくさん問題を解かせたい場合は、皆さんの腕の見せ所です。レポート用紙などに類題を書いてあげたいかがでしょう。印刷されたプリントよりもスタッフの気持ちが伝わりますし、そのこどもに必要な問題をピンポイントで扱うことができます。

### 2.さかのぼり学習に活用する

時間に余裕があれば、さかのぼり学習がおすすめです。「苦手な分野はある？」などと聞きながら、1章から順に確認していくと曖昧なままになっている分野や、何となく流している分野が見つかります。そこをもう一度説明して、復習してもらいましょう。基礎学力をつけるためには、反復練習が有効ですし、問題集やプリントなど、あれこれ手をつけるよりも、教科書の内容をきっちり扱ったほうが学習効果が高いと言われています。逆に習熟度の高いこどもであれば、一緒に学校の予習をしたらいかがでしょう。教科書を開いて、たぶん今度こういう内容を教わるから、ちょっと見てみようかと、こどもの好奇心や優越感を刺激するのもひとつの方法です。

### 3.スタッフの勉強のために利用する

速さの問題や、割合の問題をどう教えるべきか、戸惑ったことはありませんか。そんな時は教科書が役に立ちます。私たちがこどものころに教わったやり方と変わっている部分があるかもしれません。一度教科書で確認しておけば、学校の教え方にあわせることができますね。特に中学理科は改訂を重ねているので注意しましょう。例えば、中2で学習する気圧の単位は、1992年より、ミリバールから、hPa（ヘクトパスカル）に変更されています。担当される際には、こどもの教科書を見せてもらって確認しておきたいですね。

ワークブックやプリントを多用すると、こどもは教科書の流れから切り離された「断片的な知識」としてしか理解できなくなる場合があります。教科書は単に知識を並べているのではなく、「どの学習がどこにつながるのか」という体系的な学習順序が精密に組まれています。本学習会では、教科書や教科書に準拠したワークブックに取り組むことを重視し、その場限りではない「つながった学び」として理解定着してもらえたいと目指します。

## 1 月号 漢字ドリルの傍らで

学習会で漢字ドリルに取り組む子どもは多いと思います。そうなると隣で見守るスタッフとしては手持ち無沙汰になりがちです。せっかくの学習機会ですので、うまく子どもと関わりを持ちたいですね。

まずは目標・学習シートの「今日の学習内容」を書いてもらう際に、どれぐらいの分量があるか確認しましょう。1 コマで終わるか、2 コマ必要か。おおまかな時間配分を考えておきます。学習が始まったら子どもの様子を見守ります。小学校 4～6 年生が学習に集中できる時間は 20 分から 30 分程度とされています。集中力が落ちてきた頃合いをみて、声をかけてみましょう。続けたい様子であれば続けてもらい、飽きてきた様子であれば、漢字に関する以下のようなやり取りを試してみたいかがでしょう。

1. 練習した漢字の「へん」と「つくり」を確認する。そのうえで、同じ「へん」や「つくり」を持つ漢字を書き出してみる。10 個書いてみるとか、スタッフと子どもが交互に書いてみるなど、ゲームっぽくやると意外に盛り上がります。

2. 練習した漢字の画数を確認する。「しんによう」を 2 画と勘違いしている子どもは結構います。他に「子」(3 画)、「弓」(3 画) は間違いやすいので、その場で聞いてみるのもいいでしょう。

3. クイズ形式で、画数が一番多い漢字を書き出してもらう。教育漢字の範囲であれば、「競」「議」(小 4)「護」(小 5)が 20 画で最大です。ちなみに常用漢字まで広げると「鬱」が 29 画で最大だそうです。

4. (教科書を持っていれば) その漢字が教科書でどのような文脈で使われているか確認する。その漢字を含む文や段落を音読してもらうのもよいでしょう。

5. 練習した漢字や熟語を使って短文をつくる。何か別な言葉を含めるなど、条件をつけると盛り上がる場合があります。(「〇んこドリル」人気ですよ。学習会で使用するのは憚られますが)

6. 辞書をひいてみる。最近は学校でも紙の辞書をひく機会が減っているようです。会場に辞書があれば反意語や類義語、使い方などを確認してみるのもよいかもしれません。

以上のやり取りを通じて、気分転換？をしたら後半に向けて再スタート。ひととおり終了したら小テスト(口頭でも、手書きでも)をしてアウトプットさせるのも有効です。

他にもいろいろな手法があるかと思います。子どものために工夫してみることは、この仕事の醍醐味の一つですね。ぜひ皆さん流のアプローチを研究してみてください。

## 2月号 こどもの話題づくり

こどもと雑談をしているときに、こどもがいま興味をもっていることや、はまっていることを話してくれることがあります。自分がよく知らない話題であれば、素直に訊いてみるのもよいかもしれません。こどもは嬉しそうに教えてくれます。その一方でもし自分が知っている話題であれば、より話が弾むかもしれません。そこでこどものあいだで流行っているものなどを調べてみました。

### 『ボンボンドロップシール』

透明感のある樹脂で立体的なキラキラしたシールです。友達と「シール交換」をしたり、「シール帳」に貼ったりして楽しむようです。小学生女子に大人気のため品薄状態が続いているそうです。

### 『大ピンチ図鑑』

こどもが日常で遭遇するピンチをユーモアたっぷりに描いた、鈴木のりたけ氏の絵本です。先日発表された第5回「小学生がえらぶ！こどもの本総選挙」で1位を獲得しました。大人が読んで也十分楽しめます。

### 『あつまれどうぶつの森』

通称「あつもり」。2020年3月に任天堂が発売したNintendo switch用ゲームソフトです。無人島を舞台に自由気ままなスローライフを楽しめるそうで小学生女子に人気が高いそうです。

### 『ナルトダンス』

2025年度の小学生トレンド調査において、男子の間で流行語1位を獲得し、デジタルコンテンツで急速に浸透。特徴的な手の動きや腰の使い方が人気を博しているそうです。

### 『好きな有名人』

ある調査によると女子は音楽グループの「Snow Man」「Mrs.GREEN APPLE」、男子はYouTuberの「HIKAKIN」「はじめしゃちょー」が上位を占めるそうです。スポーツ選手では野球の「大谷翔平」選手が圧倒的な人気を誇ります。

### 『好きな給食メニュー』

柏市の小学校で人気のメニューは「鶏の唐揚げ」「ビビンバ」「揚げパン」などが定番だそうです。手作りおやつ（ミルクラスク等）も人気があるそうです。中学生は「カレーライス」が不動の人気を誇るそうです。

興味のあるものがありましたら、チェックしてみたいかがでしょうか。何か新しい発見があるかもしれませんね。なお今月号をもって、令和7年度のメルマガ配信は終了となります。ご愛読ありがとうございました。